年間授業計画　様式例

高等学校 令和６年度（５学年用） 教科　地理歴史　　科目 世界史探究

教　科：　地理歴史　　科　目：　世界史探究　　単位数：　4　単位

対象学年組：第　５ 学年　Ａ 組～　Ｄ 組

教科担当者：（Ａ組：駒田）　　（ＣＤ組：駒田）

使用教科書：（ 山川出版社『詳説世界史』　　）

教科　地理歴史　　の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】　現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】　地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目　世界史探究　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	第1章 文明の成立と古代文明の特質 ①古代文明の比較について考察し、文明誕生の基礎について理解する。 ②東アジア世界の風土、各文明の歴史的特質の関係などを多面的・多角的に考察し表現する。 ③南アジアの地勢的環境、アーリヤ人の進入による変化について多面的・多角的に考察し表現する。 ④東アジアの気候、各地の生業などに与えた影響を考察し、殷と周、春秋時代と戦国時代の支配形態を比較して表現する。 ⑤アメリカ大陸の先住民社会での支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。	1　文明の誕生 2　古代オリエント文明とその周辺 3　南アジアの古代文明 4　中国の古代文明 5　南北アメリカ文明	【知識・技能】 南アジア、東アジア、西アジア、アメリカ大陸各地の風土が、多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したことを理解している。 【思考・判断・表現】 南アジア、東アジア、西アジア、アメリカ大陸各地の風土が、多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したことを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 南アジア、東アジア、西アジア、アメリカ大陸各地の風土が、多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したことを、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 ①中央ユーラシアとアジア大陸と遊牧民の関係、騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ②東・東南・隋・唐の支配体制の変遷、魏晋南北朝の動乱の中で、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③中国の統一国家と匈奴・突厥・ウイグル・ツグドムなど遊牧民族の動きとの関係について理解する。	1 中央ユーラシア――草原とオアシスの世界 2 東・隋帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	【知識・技能】 東・漢・隋・唐といった統一国家の支配体制、魏晋南北朝の動乱の展開、中央ユーラシアの遊牧民やオアシス民の周辺の諸勢力との関係を、時代や他の地域との違い、時期ごとの変化を踏まえたうえで理解している。 【思考・判断・表現】 東・漢・隋・唐といった統一国家の支配体制、魏晋南北朝の動乱の展開、中央ユーラシアの遊牧民やオアシス民の周辺の諸勢力との関係を、時代や他の地域との違い、時期ごとの変化を踏まえたうえで多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 東・漢・隋・唐といった統一国家の支配体制、魏晋南北朝の動乱の展開、中央ユーラシアの遊牧民やオアシス民の周辺の諸勢力との関係を、時代や他の地域との違い、時期ごとの変化を踏まえたうえで、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 ①マウリヤ朝、クシャーナ朝、グプタ朝と周辺諸地域との関係 ②宗教や文化の展開を理解する。 ③「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ④東南アジアの風土と南アジア・中国との関係、国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インドと南文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	【知識・技能】 南アジアで生まれたさまざまな宗教および、マウリヤ朝・クシャーナ朝・グプタ朝が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 【思考・判断・表現】 南アジアで生まれたさまざまな宗教および、マウリヤ朝・クシャーナ朝・グプタ朝が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 南アジアで生まれたさまざまな宗教および、マウリヤ朝・クシャーナ朝・グプタ朝が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 ①アケメネ朝、パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因、東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ②古代オリジナのポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較しながらで理解する。 ③ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ④ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較しながらで多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤地中海における覇権争奪、「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ⑥ローマ帝国の文化的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑦キリスト教の成立の経緯、ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	【知識・技能】イラン諸国家の興亡、アケネ朝支配出現の経緯、ローマの共和政から帝政への経緯、キリスト教の変容、ギリシア・ローマ文化の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 イラン諸国家の興亡、アケネ朝支配出現の経緯、ローマの共和政から帝政への経緯、キリスト教の変容、ギリシア・ローマ文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イラン諸国家の興亡、アケネ朝支配出現の経緯、ローマの共和政から帝政への経緯、キリスト教の変容、ギリシア・ローマ文化の特徴を、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ①アラブ人ムスリム軍の大征服からウマイヤ朝・アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ②イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③イスラーム政権の多様化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ⑤ビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較しながらで理解する。 ⑥ローマ教会とフランク王国の関係、カールの戴冠が世界の歴史において持つ意義について理解する。 ⑦ノルマン人が西ヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解する。	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	【知識・技能】 イスラーム教の成立と勢力拡大、西ヨーロッパと東ヨーロッパの独自世界の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 イスラーム教の成立と勢力拡大、西ヨーロッパと東ヨーロッパの独自世界の形成を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イスラーム教の成立と勢力拡大、西ヨーロッパと東ヨーロッパの独自世界の形成を、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ①中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカのイスラームの背景について考察し表現している。 ②トルコ人の進出、十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 ③マムルーク朝のもとでのカイロの繁栄、イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解している。	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	【知識・技能】 中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地のイスラーム化、アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてムスリムの連帯が維持されたことを理解している。 【思考・判断・表現】 中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地のイスラーム化、アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてムスリムの連帯が維持されたことを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地のイスラーム化、アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてムスリムの連帯が維持されたことと見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 ①中世の西ヨーロッパにおいてローマ・カトリック教会が機械を持つに至る背景を理解する。 ②十字軍の遠征の経緯と、封建社会が解体に向かった背景を、教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ③中世の都市が果たした政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。 ④ビザンツ帝国の衰退の要因、ビザンツ文化が果たした世界史的な意義、スラヴ人の自立の経緯を理解する。 ⑤各国における身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ⑥中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	【知識・技能】 中世西ヨーロッパの商業の活動状況とその特徴、封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動き、ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人およびオスマン人の動向について理解している。 【思考・判断・表現】 中世西ヨーロッパの商業の活動状況とその特徴、封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動き、ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人およびオスマン人の動向について多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 中世西ヨーロッパの商業の活動状況とその特徴、封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動き、ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人およびオスマン人の動向について見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ①10世紀の東アジアでの政権交替の背景、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴、社会や経済・文化の発展の様子を理解する。 ③モンゴル帝国の成立背景、東西交流の新しさ、ティムール朝やモンゴル帝国から受け継いでいるものを多面的・多角的に考察し表現する。	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	【知識・技能】 10~13世紀のモンゴル帝国を含めた東アジアの情勢、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 【思考・判断・表現】 10~13世紀のモンゴル帝国を含めた東アジアの情勢、東アジア内の交流と再編を中心に多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 10~13世紀のモンゴル帝国を含めた東アジアの情勢、東アジア内の交流と再編を中心に見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	第9章 大交易・大交流の時代 ①明朝の統治の特徴、明との朝貢関係と世界的な商業の発展が諸地域にたちまちた影響、中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解する。 ③ヨーロッパの人々の進出がアジアや南米にもたらした影響や変化を理解する。 ④16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。	1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	【知識・技能】 「世界の一体化」が始まった時期のアジアの動向や、ヨーロッパの海洋進出の動機や背景、経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 「世界の一体化」が始まった時期のアジアの動向や、ヨーロッパの海洋進出の動機や背景、経緯を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 「世界の一体化」が始まった時期のアジアの動向や、ヨーロッパの海洋進出の動機や背景、経緯を見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	第10章 アジアの盛衰諸の繁栄 ①オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②サファヴィー朝のスペイン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較しながらで多面的・多角的に考察し表現する。	1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	【知識・技能】 オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国、清朝の基礎が築かれた経緯や政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 【思考・判断・表現】 オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国、清朝の基礎が築かれた経緯や政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国、清朝の基礎が築かれた経緯や政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

2学期	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 ①ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する①は16世紀後半から18世紀におけるポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス・フランス・オーストリア・プロイセン・ロシアの国内状況と国際関係を理解する。 ③科学革命の成果と、ヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	【知識・技能】 ルネサンスや、キリスト教の新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分断、ヨーロッパ各国の状況、科学革命と呼ばれる一連の変化について理解している。 【思考・判断・表現】 ルネサンスや、キリスト教の新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分断、ヨーロッパ各国の状況、科学革命と呼ばれる一連の変化について多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ルネサンスや、キリスト教の新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分断、ヨーロッパ各国の状況、科学革命と呼ばれる一連の変化について見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	第12章 産業革命と環大西洋革命 ①18世紀に起こった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解し、イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ⑤ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	【知識・技能】 産業革命、アメリカ合衆国およびその南米諸国の独立、フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景、歴史的経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命、アメリカ合衆国およびその南米諸国の独立、フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景、歴史的経緯を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命、アメリカ合衆国およびその南米諸国の独立、フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景、歴史的経緯を見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第13章 イギリスの優位と欧米諸民間国家の形成 ①ナポレオン帝国崩壊後の国際秩序、ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②19世紀ロシア・イギリス・フランスの政治変革の特徴について理解する。 ③イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれに比較したうえで理解する。 ④19世紀革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察する。 ⑤クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ⑥ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ⑦幕上拡大がアメリカ社会に与えた影響、アメリカ合衆国の歴史において「移民」が第一級味を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑧19世紀欧米文化における新い手や展開された場（空間）の推移を理解する。	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	【知識・技能】 19世紀のヨーロッパ情勢の推移、南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造、19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 19世紀のヨーロッパ情勢の推移、南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造、19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 19世紀のヨーロッパ情勢の推移、南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造、19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	第14章 アジア諸地域の動揺 ①オスマン帝国の同強への経済的な従属化の経緯、帝国の改革の成果と課題を理解する。 ②ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③イギリス東インド会社の機能の変化と、イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。 ④東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 ⑤清朝の危機の要因、清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	【知識・技能】 西・南・東南・東アジアにおける動揺や改革または植民地化の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。 【思考・判断・表現】 西・南・東南・東アジアにおける動揺や改革または植民地化の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 西・南・東南・東アジアにおける動揺や改革または植民地化の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 ①帝国主義と、その実配を支えた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ②列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ③20世紀初頭における列強体制の特徴入の変化と各列強が抱えていた国内事情とその課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ④日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響、身出域この実現を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤インド、東南アジア、西アジア各地における民族運動の共通する傾向、社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	【知識・技能】 帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯、アジア各地における改革や民族運動の展開と結果について理解している。 【思考・判断・表現】 帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯、アジア各地における改革や民族運動の展開と結果について多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯、アジア各地における改革や民族運動の展開と結果について見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
				○	○		1
	定期考査						
	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 ①第一次世界大戦の原因、もたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ③第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯と展開を理解する。 ④イタリア、東欧・バルカン半島、ソ連が直面した問題と、それに対応すべく築られた体制を理解する ⑤第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカにおける民族運動の経緯を理解する。	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	【知識・技能】 第一次世界大戦、ロシア革命の展開、戦間期の国際秩序の内容やその特徴と、その後の国際関係の変化などとあわせて理解している。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦、ロシア革命の展開、戦間期の国際秩序の内容やその特徴と、その後の国際関係の変化などとあわせて多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 第一次世界大戦、ロシア革命の展開、戦間期の国際秩序の内容やその特徴と、その後の国際関係の変化などとあわせて見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ナチスドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。 ③ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。 ④日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ファシズム諸国の攻勢と第二次世界大戦の展開を理解する。 ⑥戦後国際秩序がいかなる構想のもとで形成されたのかを理解する。 ⑦冷戦開始および東西ヨーロッパ分断の進展について、それぞれの経緯を理解する。 ⑧東アジアの国際情勢、東南アジアおよび南アジアの独立の背景や経緯、現代の中東問題の要因を多面的・多角的に考察し表現する。	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破綻 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	【知識・技能】 世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動き、第二次世界大戦の対立の構図と第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それぞれおよび相違点をふまえて理解している。 【思考・判断・表現】 世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動き、第二次世界大戦の対立の構図と第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それぞれおよび相違点をふまえて多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動き、第二次世界大戦の対立の構図と第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それぞれおよび相違点をふまえて見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	第18章 冷戦と第三世界の台頭 ①米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争と制限に取り組むようになった経緯を理解する。 ②冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響、米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西欧と日本の経済復興の背景をそれぞれ理解する。 ④スターリン死後のソ連と東欧、中国における変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤日本の社会を迫ぎるアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。 ⑥キューバ革命の背景および影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑦第三世界における開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	【知識・技能】 冷戦の進展と、各国の社会に与えた影響や核開発の動き、第三世界の台頭、キューバ危機、ベトナム戦争をはじめとする1960年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて理解している。 【思考・判断・表現】 冷戦の進展と、各国の社会に与えた影響や核開発の動き、第三世界の台頭、キューバ危機、ベトナム戦争をはじめとする1960年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 冷戦の進展と、各国の社会に与えた影響や核開発の動き、第三世界の台頭、キューバ危機、ベトナム戦争をはじめとする1960年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第19章 冷戦の終結と今日の世界 ①オイルショックが各国の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②1960年代以降の世界の各地域の変容の経緯を理解する。 ③1970年代後半から80年代初半において米ソがそれぞれ老まし た対政策の内容を理解する。 ④ソ連で始まった改革と東欧革命との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥20世紀以降の科学技術の革新、現代思想・文化における新しい潮流の内容を理解する。	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	【知識・技能】 1960年代以降の各国の経済や社会の状況、冷戦終結の過程、現代思想・文化の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 1960年代以降の各国の経済や社会の状況、冷戦終結の過程、現代思想・文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 1960年代以降の各国の経済や社会の状況、冷戦終結の過程、現代思想・文化の特徴を見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	9
		地球世界の課題の探究	【知識・技能】 設定した課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を理解している。 【思考・判断・表現】 設定した課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 設定した課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
							合計
							140